令和４年度　長期研修生　教育臨床

教育臨床プログラムでの学び

千葉県子どもと親のサポートセンター
千葉県総合教育センター特別支援教育部

印西市立木下小学校　大場　裕幸

1

令和４年度長期研修生　教育臨床

教員の「遊び心」のある関わり

船橋市立二和小学校　鈴木　智実
市川市立富美浜小学校　塩原　歩
印西市立西の原小学校　大場　裕幸
いすみ市立国吉中学校　梶　祐梨子

4

Ⅱ 研究目標　Ⅲ 研究の実際　Ⅳ 研究のまとめ

遊び心

余裕・ゆとり・ユーモア

9

Ⅰ 研究主題　Ⅱ 研究目標　Ⅳ 研究のまとめ

（1）　教員の関わりの観察　結果と考察②

６つの遊び心

- ユーモア
- 好奇心への刺激
- 体験談
- 雑談
- 自己開示
- 応答性

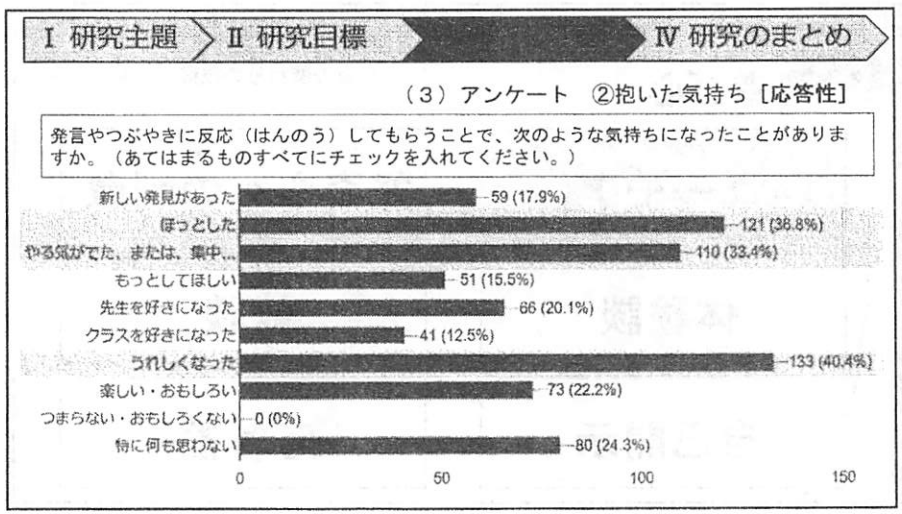
13

19

（1） 教員の関わりの観察　結果と考察④

上位効果		下位効果
A 教員への親しみを生む	a	教員と児童生徒との心理的距離感を縮める
	b	教員と児童生徒が関わるきっかけをつくる
	c	教員が児童生徒と一緒に関わりを楽しむ
	d	配慮を要する児童生徒への関わりの機会をつくる
B 楽しい雰囲気をつくる	a	友人同士のつながりを深める
	b	笑いや笑顔をもたらす
C 授業の活性化	a	気分転換をもたらす
	b	身の回りへの関心を広げる
	c	題材や指導上の発言に注目を集める
	d	教材や題材と関連付けて、多面的なものの見方、考え方につなげる
D 折り合いを付けられる	a	児童生徒が教員に助けを求めやすい雰囲気を提供する
	b	児童生徒が素直に自分を振り返る
	c	児童生徒の自主的な行動を促す
	d	指導場面における学級の雰囲気のマイナス要素を軽減する
E 不安を和らげる	a	児童生徒の緊張感を和らげる
	b	困難に感じる学習に対して意欲的に取り組めるように抵抗感を下げる
	c	失敗への不安を軽減し、間違っても恥ずかしくない雰囲気をつくる

22



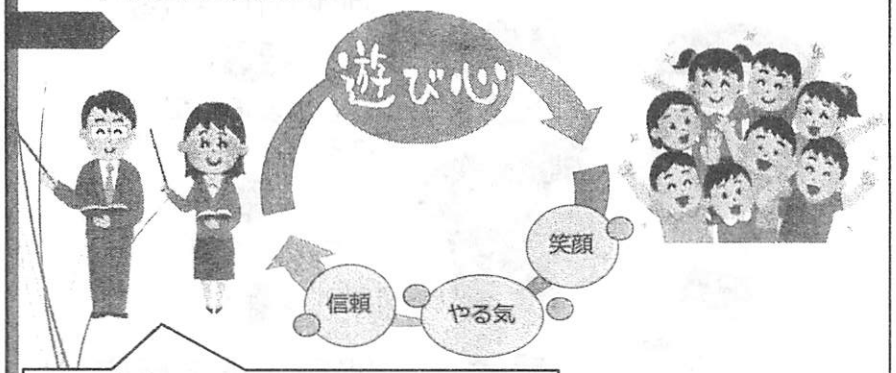
23

教員の「遊び心」のある関わり ＼ 児童生徒が抱く学級のイメージ		クラスの中で安心して過ごせますか。	クラスの中で自分の思ったことを気軽に言えますか。	クラスのまとまりはありますか。	あなたのクラスは思いやりのあるクラスですか。	あなたはいろいろなことに、前向きに取り組もうとしていますか。	先生はあなたやクラスのことを気にかけたり、ほめてくれたりしますか。
① ユーモア	先生は授業中にユーモアのある話をしますか。	.071	.192**	.253**	.209**	.179**	.287**
② 好奇心への刺激	先生は学習内容に興味がわく話をしますか。	.238**	.229**	***.357*** **	.259**	.256**	***.502*** **
③ 体験談	先生は自分の体験・経験を話してくれますか。	.176**	.170**	.179**	.164**	.188**	***.394*** **
④ 雑談	先生は授業に関係ない話をしますか。	-.074	.044	-.059	-.076	.006	-.046
⑤ 自己開示	先生は、先生がどんな人かわかるような話をしますか。	.079	.149**	.125*	.049	.121*	.258**
⑥ 応答性	先生は授業中の発言やつぶやきに反応してくれますか。	.194**	.292**	***.315*** **	.265**	.219**	***.439*** **

+ $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$,

24

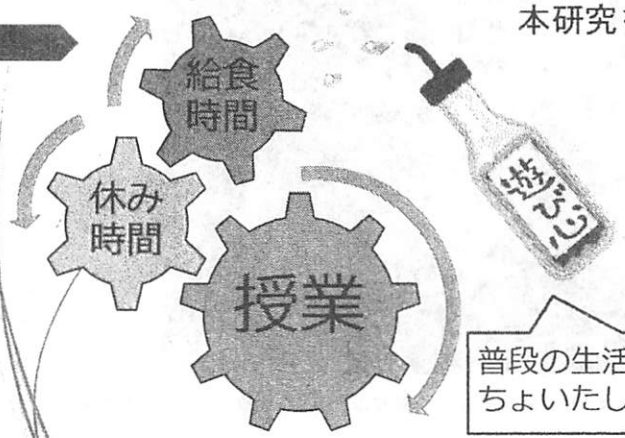
本研究を終えて



教員自身もゆったりとした大らかな
気持ちで児童生徒と向き合える

26

本研究を終えて②



普段の生活の中で
ちょいたしでできるもの

27

子どもと親のサポートセンター での学び

28

講義・演習

- ケース事例をもとにした演習
- ロールプレイングによる疑似体験、逐語分析
- メール回答演習
- 臨床に必要な知識、技法についての講義

児童生徒を理解する「見立て」を深める

30

絵本『いやな気持ちは大事な気持ち』作 大河原美以　絵 山本実玖　2021　日本評論社

32

仲間外れにされる

↓

安心な環境が脅かされる

↓

不安・ストレス

↓

闘争か逃走反応

33

闘争か逃走反応とは

不安やストレス刺激を受けた際に
生じる自分のことを守ろうとする
原始的な自己防衛反応

戦う？ or **逃げる？**
(Fight)　　(Flight)

34

不安・ストレス

↓

自分の身を守る
防衛反応

36

アンナ・フロイトの防衛機制

退行
抑圧
反動形成
分離（隔離）
打消し

投影（投映）
取り入れ
自己への向き変え
転倒（逆転）
昇華

37

プレイセラピーとは

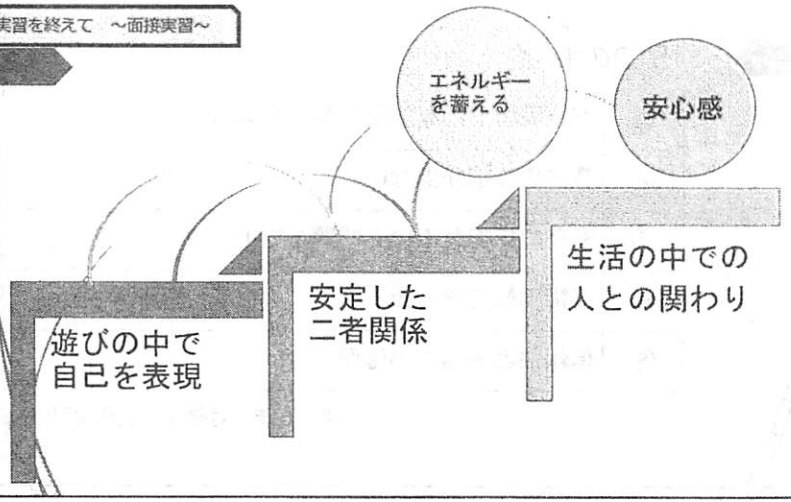
子どもを対象とした心理療法で、遊び（プレイ）によって自分自身を表現したり、セラピストとの交流を図ったりすることを通して、対象児の心の状態を理解し、治療に役立てる。

＋

遊びが持っている治療効果

41

実習を終えて　～面接実習～



42

ドキッとするごっこ遊び場面

長男「遊びに行こうぜ」
長女「うん。いこう！」
長男「パパも誘おうぜ。」
長女「パパは今日も飲み会だよ。」
長男「今日も飲み会かー！。」
「ま、いいよ！じゃ俺たちだけでいこう！」
長女「そうだね！何しようか？」
長男「じゃ、競争だ！」

46

SOとは

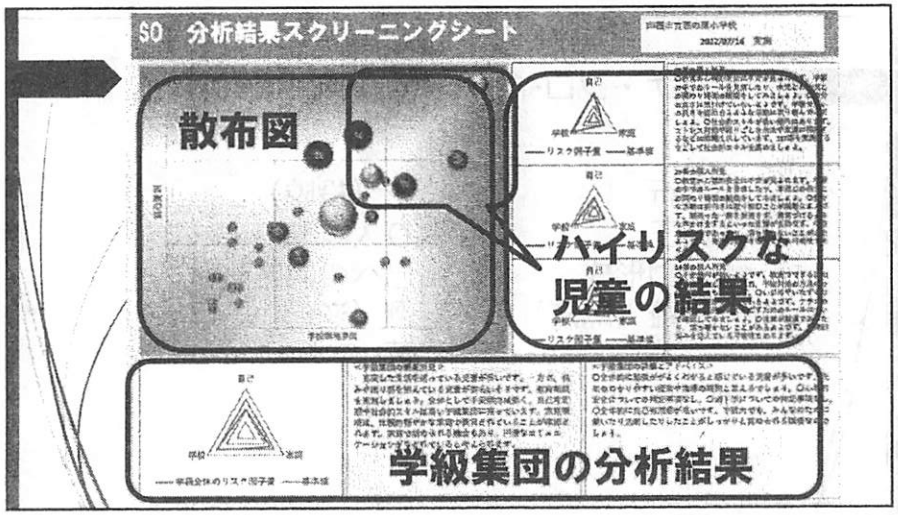
不登校等の心理的不適応のスクリーニング

＋

個人の多面的アセスメント

※４～６年生対象（2023年3月現在）

48



49

50

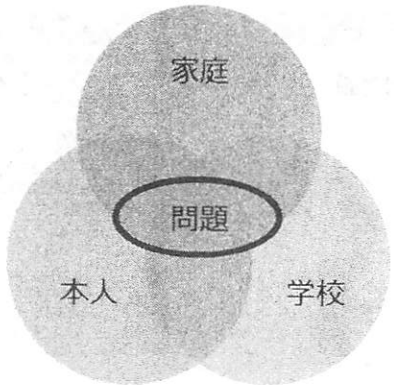
５つの特徴

①	家庭環境要因を加えた多面的な分析
②	教員の負担が少ない
③	潜在的に抱えている問題を検出
④	学級の傾向を分析
⑤	信頼性と妥当性の確保

※４～６年生対象（2023年3月現在）

51

家庭環境要因を加えた多面的な分析



○家庭環境要因
- ネグレクト・虐待・愛着不全
- 夫婦関係・過干渉
- 家庭内コミュニケーション

○本人要因
- 先天的気質・学習困難
- 社会的スキル・不安傾向の強さ
- 自己肯定感や有用感・HSC

○学校要因
- 教師や友人との関係づくり
- 学習・いじめ・学級環境
- 心理的安全性

53

教員の負担が少ない

・児童がICT端末でアンケートに回答するだけ。
※実施時間は約１５分程度

54

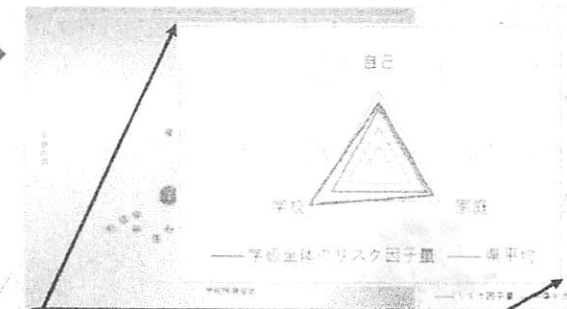
特徴③ 潜在的に抱えている問題を検出

・定期的に行う生活アンケートからは見えていなかった児童がいた。
・学校での課題が多い児童は日頃の姿がわかるのでアンケート結果にもつながっていましたが、自分がノーマークだった児童が結果にあがってきていた。
・普段関わっている児童の様子と概ね一致したため。
・「その通りだな」と思う子と、「やっぱりな」と思う子と、「えっ？そうだったの？」と思う子がいたから
・想定していなかった結果がいくつかあった。

※教員対象のアンケート結果より

55

特徴④



学級集団の分析結果

56

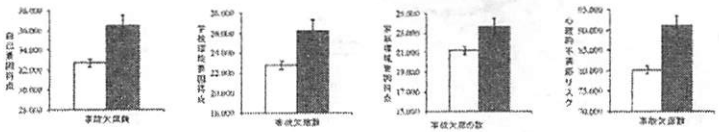
信頼性と妥当性の確保①②③

	項目	詳細
①	相関分析による検討	尺度全体と、それぞれの質問項目の相関から、内的整合性（尺度の質問項目が全体として同一の構成概念を測定しているか）について検討。完成版の内的整合性（Cronbachのα係数）は.841となっている。
②	質的な視点による妥当性の検討	教員対象のアンケート調査により、教員の見立てとSOの結果が概ね一致している。
③	既存尺度との併存的妥当性の検討	同一学級にSOと学校適応感尺度（ASSESS）を実施し、相関分析により算出されたピアソンの積率相関係数が.534となっている。

57

信頼性と妥当性の確保④⑤

	項目	詳細
④	家庭環境要因における論理的妥当性の検討	家庭環境や親子環境に問題があると、不登校・ひきこもり・対人関係能力の低下・抑うつ・不安など、多岐にわたる症状が出る傾向にあるとされている。（友田2016被虐待者の脳科学研究）
⑤	欠席日数との関連から判別的妥当性の検討	6学級220名の回答から算出した得点をもとに年間の事故欠席数との関連から判別的妥当性の検討をした。T検定により有意差あり。



58

県内標準化の概要

県内59学級、3,036名を対象に実施

Lieスケールによる絞り込み

2,353名での標準化

※2023年３月現在

65

67